

# 意見交換会概要

日 時	平成25年 4 月 18 日 ( 木 ) 19 : 30 ~ 21 : 00
場 所	小鷲河地区公民館
参加者数	約15人
出席者	校区審議室（神谷、小谷、清水）、竹内地域家庭教育係長、中川支所長、米田副支所長、佃主幹

発言者	主な意見、質問等
参加者 A	学校のあり方を考えるにしても具体的なスケジュールを示してほしい。意見をまとめてからどれくらいの期間で実現するのか。
参加者 B	話を端折っている。気高中、青谷中は耐震化が必要であるとか、費用はどれくらいかかる見通しだとか説明不足。状況を隠してまでなぜこのような懇談会を開くのか。市として具体的な提案はあってもよいと思う。
参加者 C	資料を見ると数の原理である。地域住民としては生徒だけの問題ではない。地域とのつながり、住民とのつながりがの場であり重要。また、統合するならどこだとか、具体的なことを聞きたい。過去、小鷲河小学校がなくなったときコミュニケーションの場がなくなった。実際、鹿野小学校付近に出て行った人もおり過疎が進んだ。
参加者 D	当時のことを振り返ると小鷲河小は児童数は少なかったが、少ないなりに自分がしなければという責任感を持っていた子も多かった。小学校が統合した時のことを振り返ると、人数が増えると「自分がしなければ」という気持ちも薄くなるし、「取り組む」、「体験する」ということが減少したと思う。また、親同士のかかわりも減少し、地域とのかかわりも減少した。
参加者 E	8年もこの問題をほっておいて、お粗末すぎる。市長アワーで当時の支所長も同席していたが、その時生徒数の減少と統合案を示していた。市長はそのことについても覚えていなかった。
参加者 F	中学校でPTA役員をしている。明らかに今までの説明会とは違うと感じている。小鷲河は中学生が地区の行事にボランティアで参加したり、地域ぐるみで子を育てるといった意識でいる。今の学校のカリキュラムでも地域との交流も組んでいるが、統合となると自分たちも魅力だと思っていることを続けていけるのかが不安。

## 意見交換会概要

発言者	主な意見、質問等
参加者 G	<p>佐治、用瀬が統合したというが、佐治の奥から新中学校までの通学距離は？通学方法は？河内から鹿野まで 8 km であるが、通学と考えると統合中学校の浜村まではプラス 5 km となる。鹿野に住んでいる人なら統合となっても 5 km、自転車でも通えると話していたが鹿野目線で小鷲河のことを考えていないと腹が立った。距離と時間は子どもにとって負担となる。小鷲河（河内）から遠距離（18 km）となる、せめて自転車通学ができる距離がよい。また校区審議会が 6 学級が望ましいというが、この地域にはなじまない。教科も掛け持ちで、指導力が疑問とのことだが、鹿野には熱意のある先生方が赴任してきていると思っている。6 学級以上にこだわる必要はないと思う。</p>
参加者 B	<p>部活の事が頻繁に話題に出てくるが、人数が少ないと好きな種目に取り組めない、いい成績がえられないという理由で統合に持っていくのはどうか。自分の好きなスポーツ以外でも部活に取り組むことで新たな可能性を生むこともある。現に自分の子も高校時にバスケットをしたかったのだがフェンシング部に引張られ、結果国体にも出場できた。多種目であることがいいことだが、部活ができないイコール統合との考え方はいささか不思議。</p>
参加者 F	<p>今の鹿野中学校の部活（運動部 6、文化部 3）は少ない。新生 25 人程度だが、それらの部が取り合う状況である。実質、3 年生は夏で抜けるので部活は 2 学年で構成しなければならないが、現状ではチーム編成もままならない。試合に勝利する以前に試合への出場も困難になりつつある。親としては悩ましいところ。</p>
参加者 D	<p>校区の見直しはできないのか。気高町の人が鹿野といったように。以前やっていたのだから問題はないと思うが。</p>
参加者 C	<p>統合ばかりでなく校区割り変更の議論もしていくべきだ。過去、「山宮」の人までは鹿野中学校に通っていた。</p>
参加者 G	<p>鹿野町はかつては中心地。逢坂、瑞穂、上光のあたりは鹿野にくる。人とモノの流れは鹿野にあったのは事実で映画館、旅館、駐在もあった。浜村が中心と考えられているが JR 山陰線が通ってからのことで、昔は何にもなかった。</p>

## 意見交換会概要

発言者	主な意見、質問等
参加者 J	歴史の流れがあり今の気高、鹿野、青谷という地域がある。地域の思いは重要。学校規模、子どもの教育という立場で語られると統合が一番いいことは分かるが、地域の特色をいかした学校づくりが見えてこない。小中一貫校もいいのではないか。合併すると地域の特色が薄れることは確か。地域の中で9年間は育ててほしいというのが住民としての気持ち。高校となったなら地域から出ていくことになるのだから。
参加者 H	小中一貫校がいい。地域に中学校はなくてはならない。どのような学校がいいか提案してほしいというが、教育理念など作り上げることは住民では無理。鹿野町民としては残してほしい。
参加者 F	今は部活動だけがスポーツではなく、クラブチームに所属するといった道もあり個々が選択する時代であるものの、確かにバレーに熱心な親は子どものために気高中学校に通わせたりすることもある。子どものために統合もやむなしとの意見もある。
参加者 A	統合となると遠距離通学の面が心配となる。小学校低学年の子供の身体には負担があるのでは。登下校合計60分の時間を通学に費やす意味、学校近くに住む子どもと状況が違いすぎて、発育の面で支障が出るのでは？教師としての立場でその点ご存知でしたら伺いたい。
参加者 B	小鷲河小学校がなくなり鹿野小学校に統合となったとき、小学校付近に引っ越していった家庭も少なからずある。農協もなくなり、この4月には森林組合もなくなった。現に小学生のいない集落もある。本当に寂れていく一方だ。学校がなくなるとはそういうこと。中学校を浜村に持っていくことは、教育という面でも地域と一緒に子どもを育てるといった気持ちを無くさせることだ。
参加者 D	鹿野小学校が統合した時には「大人も学校に行こう」がキャッチフレーズであり、保護者も一緒になって部活動に参加したりしている。地域のみんなで学校にかかわろうと意識を持っている。
参加者 E	市町村合併のときのように気高、鹿野、青谷の住民がフォーラムをして意識を高めてみてはどうか。教育長も地元で意見を聞いたり3町の住人も意見交換できる場を作ってほしい。